

ほ ほ え み

桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
電話番号(0277)-44-7171(代) FAX(0277)-44-7170
URL <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

基本理念・基本方針・

患者さんの権利・患者さんの責務を改定しました

院長 また さかえ
丸田 栄

現在の医療環境は、①DPC（診断群分類別包括評価）、②平均在院日数の減少（ここ10年で21日から14日に減少）、③7:1看護体制（患者7人に対し看護師1人配置）の採用により、大きく変化しています。桐生市・みどり市の医療圏の人口動態からは、必然的に医療圏外からの受診・入院も必要となってきます。

こうした医療環境の変貌の中で、当院において今日までその役を果たしてきた基本理念、基本方針、患者さんの権利、患者さんの責務、そして病院倫理綱領のあるべき姿も、時代に即した見直しと変更の時にあると考えられます。

今秋には第三者機関による当院の病院機能評価の更新審査を受ける時期でもあり、それに合わせて院内で検討し、決定した内容をここに皆さんへ提示いたします。

変革の主旨は、以下にあります。

患者さんの権利意識の高揚とそれへの病院の対応の変化、プライバシー保護と医療情報の公共性による秘密保持制限の検討、地域医療全体及び院内医療者の協力によるチーム医療への移行、病院経営及び職員満足度への配慮、医療の公平性やインフォームドコンセントの導入、患者さんの医療選択の権利と責任及びその診療費負担の義務、診療内容の時代性の反映などを考慮しました。病院倫理関係は、(社)日本病院会 (<http://www.hospital.or.jp/>) のものを活用させていただきました。

依然完成されたものではなく、いつでも変更・刷新が可能ですが、内容は現段階で院内の合意をいただいた基本的な事項が網羅されていると思います。

今後、広く理解され、その精神に則^{のっと}った診療が十分に発揮され、桐生厚生総合病院がいつまでも地域に誇れる信頼される病院であり続けることを願っています。そして、病院の益々の発展と地域のご理解に寄与するものであれば、提案者として大変光栄に思います。



『基本理念』

命を育み、病を癒す、安心して最良の地域医療

『基本方針』

1. 私たちは、患者さんの命を守り、健康回復とその増進を責務とし、地域医療の充実と発展に努めます。
2. 私たちは、患者さん及びご家族の思いを受け止め、分かりやすい質の高い診療に努めます。
3. 私たちは、説明と同意を大切にするチーム医療の推進に努めます。
4. 私たちは、地域医療機関との良好な連携強化に努めます。
5. 私たちは、弛まぬ研鑽と実践的な研修に努めます。
6. 私たちは、今後も地域基幹病院として、医療施設や職場環境の整備、効率的で健全な病院経営に努めます。

『患者さんの権利』

1. 人間としての尊厳を保ち、安全で信頼される標準的な医療を、社会的状況にかかわらず、公平に受けることができます。
2. 検査、診断、病期、治療、経過や予後などについて質問し、分かりやすい言葉で丁寧な説明を受けることができます。
3. 医療者からのいろいろな説明を聞き、自分の意思で治療を選び、決定することができます。
4. 診療を選ぶ前に、主治医と異なる医師の説明や意見（セカンド・オピニオン）を聞くことができます。
5. プライバシーの保護は優先して尊重されます。ただし、診療で得られた個人情報の管理・保全是、公共性のためにその利用が協議、検討されることがあります。
6. 自分の医療情報の開示及び非開示は、病院規則によって、申し出ることができます。

『患者さんの責務』

1. 安全で最良な医療には、病気にかかわるあらゆる情報を、正確にお話しいただき、選んだ治療へのご協力が必要です。
2. 病気の理解と治療が進んでも、人が違えば治療成績も違います。医療に完全はなく、不測の事態も生じる医療の現状にご理解をお願いいたします。
3. 病院には様々な患者さんがいらっしゃいます。それぞれの方々の権利を尊重し、お互いに配慮した節度ある行動をお願いいたします。
4. 当院は教育病院です。研修医、看護学生など、多くの実習生がいます。教育へのご協力をお願いいたします。
5. 診療費の請求は受けていただいた医療の対価であり、公正な経済行為です。遅滞なく支払いを完了されるようにご理解とご協力をお願いいたします。

新任医師と診療科の紹介(1) 血管外科

外科(血管外科)診療部長 出津 明仁 いでつ あきひと

平成24年4月から当院において血管外科診療を再開しました。質の高い医療を提供することで、地域医療に貢献できるよう努力いたします。

【スタッフ】

外科全体のスタッフは、常勤医9人で診療に当たっています。私自身は、名古屋大学、愛知県立循環器呼吸器病センター、一宮市立市民病院で5年間血管外科診療にあたってきました。

【血管外科に関連した資格取得状況】

日本外科学会専門医、日本心臓血管外科学会専門医、脈管専門医、血管内治療医、腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医、血管内レーザー焼灼術実施医

【血管外科診療】

血管外科は、頭部や心臓を除く全ての血管を対象としています。代表的な疾患としては、

①腹部大動脈瘤、②閉塞性動脈硬化症、③下肢静脈瘤があります。

血管外科分野においてはカテーテル治療の役割が増えており、患者さんの身体的な負担軽減に貢献しています。

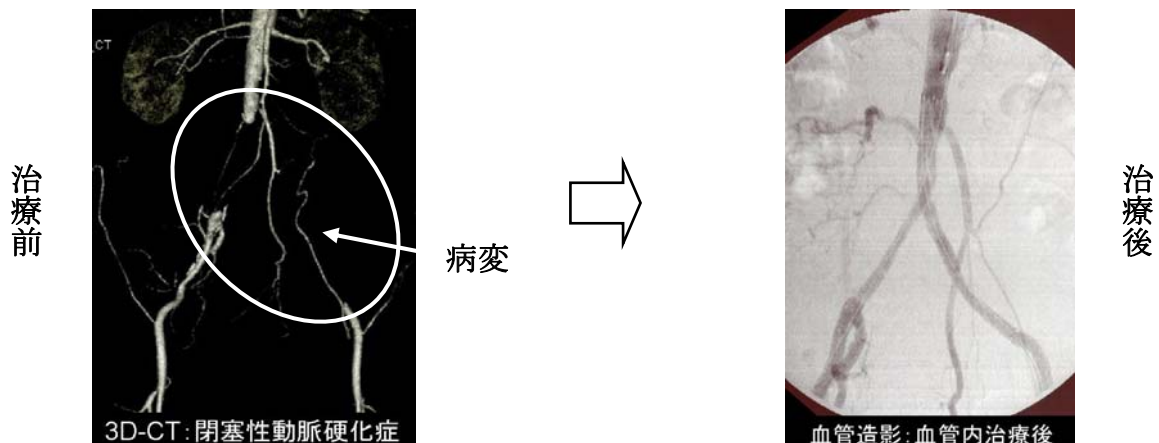
【下肢静脈瘤について】

下肢静脈瘤は、下肢の表面の静脈が「こぶ」状に拡張したものです。症状は、醜形、足のだるさ、こむら返りなどのほか、下腿の色素沈着や潰瘍(皮膚がえぐれる)などの皮膚症状があります。治療は、圧迫療法(ストッキングや包帯を使用)、硬化療法(静脈瘤を硬化剤注射で固める)、手術治療(ストリッピング)、レーザー治療などがあります。どの治療法がよいかは患者さんごとに異なりますので、下肢静脈瘤が気になる方は一度血管外科を受診してみてください。

【閉塞性動脈硬化症について】

閉塞性動脈硬化症は、主に下肢の動脈に狭窄、閉塞を起こすものであり、下肢の血行障害が生じます。自覚症状としては、足の冷たさ、しびれ、歩行時の痛み、安静時の痛み、足の壊死、潰瘍などです。50歳以上の男性、脳血管障害・冠動脈疾患合併、高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙などが危険因子といわれています。症状はご本人の活動性により異なります。血圧測定だけでも血行障害の有無は評価可能ですので、心配な方は一度検査を受けてみては如何でしょうか。治療法としては、運動、薬物療法、血管内治療、バイパス手術などがあります。

(※写真：大動脈から腸骨動脈の完全閉塞症例に対する血管内治療)



その他、腹部大動脈瘤、末梢動脈瘤、急性動脈閉塞症、透析用シャント手術、頸動脈狭窄症などの手術治療も行います。

新任医師と診療科の紹介(2) 循環器科

循環器科診療部長 くわ ばら わたる 桑原 渉



平成24年4月から循環器科に赴任しました桑原渉と申します。みどり市出身で、高校卒業後約20年ぶりに群馬に帰ってきました。山紫水明の町に戻ってまいりまして懐かしくも新しい桐生市を実感しております。

桐生厚生総合病院では、循環器疾患である心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、不整脈等を主に診療します。心臓カテーテル検査及びカテーテル治療、薬剤による内服加療や点滴加療、ペースメーカー治療等が主な治療内容となります。

胸部の症状や動悸、脈の異常、息苦しい等の症状を自覚していらっしゃる方がおられましたら、循環器外来を受診してください。また、当院他科の先生方、診療所や他施設の先生方におかれましても、循環器疾患でお困りの際にはぜひご一報ください。急性の病気が多いため、すべてに対応することは困難と考えられますが、向学心と優しさに満ちた医療を実現でき、地元の桐生市で地域医療の一端を担えるよう頑張りたいと思います。



新任医師と診療科の紹介(3) 神経内科

神経内科診療部長 たかだ 高田 しのぶ

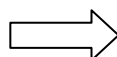
4月から神経内科に赴任しました高田しのぶです。桐生厚生総合病院は2回目の勤務で、これまで群馬大学医学部附属病院を拠点として県内のいくつかの病院で診療に当たってまいりました。

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉の病気を専門とする診療科です。

もしかすると神経科(精神科・心療内科)と混同している方もいらっしゃるかもしれませんから少し説明してみましよう。

患者さんが感じる症状としては、頭痛、めまい、物忘れ、物が二つに見える、話にくい、飲み込みにくい、手足がしびれる・ふるえる・力が入らない、などがあります。病気としては、片頭痛、アルツハイマー病を代表とする認知症、パーキンソン病、重症筋無力症、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、多発神経炎、筋炎、髄膜炎、脳炎などです。聞いたことのない病気ばかりで難しいかもしれませんね。

まずお困りの症状があれば、かかりつけの先生に相談してみてください。診察は予約制となっておりますので紹介状を書いていただき、事前予約を取って来院していただけると助かります。(飲んでる薬を持ってくるのも忘れないでください!) 診察室では丁寧な診察とわかりやすい説明を心がけています。病気と長いお付き合いになる場合もありますが一緒にがんばりましよう。



事務長就任挨拶

事務長 いのうえ こういち 井上 晃一

皆様こんにちは。平成24年4月から事務長に就任いたしました井上と申します。
平素は、桐生市・みどり市の市民の皆様をはじめ、県内外からも多くの皆様が当院をご利用くださり、本当に心より厚く感謝とお礼を申し上げます。

さて、当院は、生命と健康を守る地域の中核病院として、昨年からは新生児未熟児センター（NICU/GCU）の増床や障害者歯科医療体制の整備、また3テスラMRI装置の導入など高度な設備や医療技術の充実を図ってまいりました。

喫緊の課題である医師の確保につきましても、平成23年度には常勤医が実質的に2人増員できたほか、今年度はさらに2人の増員が図られるなど、着実に実を結びつつありますが、今後も関係機関との協力体制の下、更なる増員に向けて取り組んでいかなければならないと考えております。

また、医療の最前線で働く医師をはじめとする医療スタッフが、少しでも働きやすい職場として実感できるような職場環境の改善にも取り組んでいきたいと思っております。私は、事務方として、こうした職場環境の整備を行うことも地域住民への良質な医療を安全かつ継続して提供し、そして多くの患者さんが安心して公平、公正な診療を受けられることに繋がるのではないかと考えております。

これからも、当院が地域住民に健康と安心を提供し、常に信頼される病院であり続けられるよう、桐生市医師会をはじめ、桐生市歯科医師会、桐生市薬剤師会、その他多くの関係者の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

終わりに、私にとりまして病院は初めての職場であり、これから学ばせていただくことばかりですが、微力ながら気持ち新たに全力を尽くす所存でおります。どうぞ、皆様のご支援、ご指導を賜りますよう、謹んでお願い申しあげ、事務長就任の挨拶とさせていただきます。



磁気共鳴(MR)専門技術者の紹介とMRI検査における注意事項

放射線科 診療放射線技師 なかむら まさひろ 中村 昌弘

近年、医療の専門分化が行われ、診療放射線技師も高度な技術が要求されるようになってきました。そのため、安心・安全で質の高い医療を提供するために多くの専門技師認定制度が設立されています。その中の一つにMRIを扱う「磁気共鳴専門技術者」があります。認定には精度管理評価の書類審査後、認定試験に合格することが必要で、合格率は約30%となっています。2006年から始まり、認定者は現在全国で407名、県内では群馬大学附属病院をはじめ5施設に計9名おり、そのうち当院に3名います。

放射線被ばくのないMRI検査ですが、強い磁場に入ることによる独自の影響を受けます。

MRI撮影時に避けて通れないのが高周波パルスによる誘導加熱で、体がぼかぼかしたり、汗をかいたりするのはこのためです。

(※)ボンベやクリップ、大小にかかわらず金属(磁性体)の持ち込みは禁止です。

そのほか疑問な点がございましたら検査前にお気軽にお尋ねください。

(※)見落としがちな具体例

- ・アイシャドー ・入れ墨 ・カラーコンタクト
(顔料に強磁性体)
- ・ホッカイロ(中身は鉄粉) ・エレキバン(磁石)
- ・金属の破片が体内に入っている方
- ・商品名「ニトロダーム」真皮浸透絆創膏(アルミ含有)
- ・その他手術をして体内に入れたもの
(ペースメーカー、脳動脈瘤クリップなど)
- ・補聴器、磁気カード(部屋に入っただけで壊れます)
- ・紙幣(自販機で使えなくなります)

(※外来診療担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。)